

秋田大学

環境安全センター報

令和7年度

Environmental Research Center, Akita University

No.45

令和8年5月

秋田大学環境安全センター

目次

令和7年度活動実績

1. 「環境安全に関する講習会」の実施	1
2. 廃液の回収と処理	7

1. 「環境安全に関する講習会」の実施

教職員・学生に対して化学物質等の管理徹底及び安全な取扱いの意識啓発を高めるために実施。

(1) 開催期間: 令和7年5月13日(火)～令和8年3月31日(火)

(2) 開催方式: WebClassによるオンライン開催

(3) 対象: 教職員及び学生

(4) 講習内容

分類	タイトル	講師
講習1	化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い	大学院理工学研究科 物質科学専攻 応用化学コース 教授 加藤 純雄
講習2	化学物質リスクアセスメント実施ツール CREATE SIMPLEを用いた評価方法	ビデオ視聴(30分)

(5) 受講状況

分類	タイトル	受講者数(名)
講習1	化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い	187
講習2	化学物質リスクアセスメント実施ツール CREATE SIMPLEを用いた評価方法	180
—	(参考) 講習1と講習2の両方を受講	161

(6) アンケート結果

アンケート結果について、主な意見を以下のとおり区分別に整理し報告する。

-1. 講習内容に関する評価

- ・安全データシート(SDS)の重要性や、新規試薬使用時の注意喚起について言及があり有益であった。
- ・廃液処理方法やデータシートの保管場所、CRIS 入力方法に関する説明が理解の向上に寄与した。
- ・リスクアセスメントの重要性について再認識し、健康被害や環境負荷低減につながることを学べた。
などの肯定的な意見があった。

-2. 運用・システム(ツール等)に関する意見

- ・CREATE SIMPLE 等のツールについて、有用性は評価されている一方で、効率的・具体的な操作方法のさらなる説明を求める。
- ・ツールを用いた資料提出・保管方法や、学内での運用ルールの明確化を求める。
- ・リスクアセスメント対象試薬が多い場合、作業負担が大きくなるため、効率化に関する支援を望む。
などの声があった。

-3. 受講方法・利便性に関する評価

- ・Web形式での受講について、繰り返し視聴できる点や利便性が高く、現行方式を評価する意見があった。
などオンライン講習の継続を望む意見があった。

-4. 音声・視聴環境に関する課題

- ・自動音声および講義音声聞き取りづらいとの指摘が複数あった。
- ・倍速再生時の音声劣化や、特定環境(PC・ブラウザ)での視聴不具合に関する報告があった。

-5. 講師・運営への意見

- ・講師への感謝の意見が寄せられており、全体として講習の取り組みは評価されている。

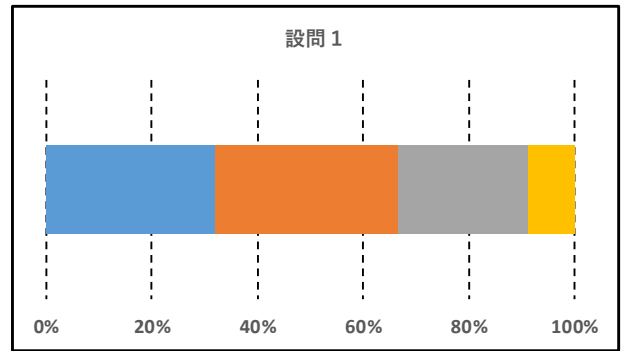
(7)まとめ

- ・内容全般と時間、Webによる開催については、好意的な意見が多く、特に繰り返し視聴できるWeb開催は安全知識の浸透に有効であるため、今後も継続していきたい。
- ・受講者に長いと感じさせないように内容の充実化を図ると共に、講習会全体を通しての開催時間の見直しを引続き検討していく。

設問 1

職種・身分を教えてください

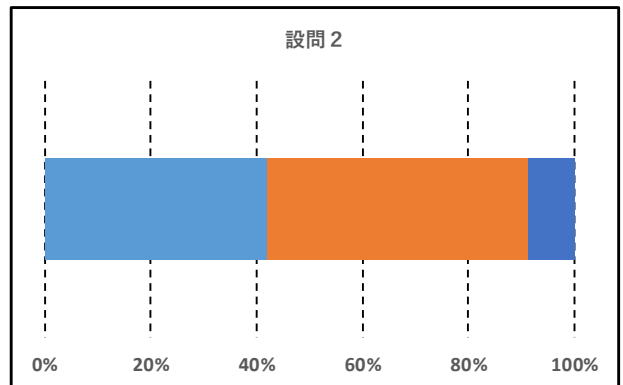
職種・身分	回答数
教員	22
職員	24
学生	17
未回答	6



設問 2

講習の内容全般についてどうでしたか

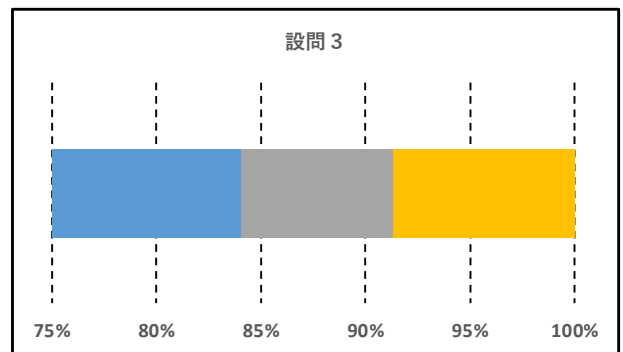
回答内容	回答数
満足	29
どちらかといえば満足	34
どちらかといえば不満	0
不満	0
未回答	6



設問 3

今回もweb上で録画映像による講習会を開催します。会場使用の対面形式と比較し、web開催の印象はどうでしたか？

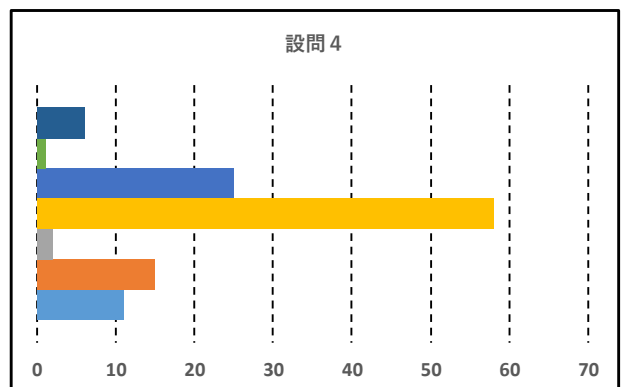
回答内容	回答数
web形式の方がよい	58
会場を設ける形式の方がよい	0
どちらでもよい	5
未回答	6



設問 4

問3の回答を選択した理由を教えてください。(複数選択可)

理由	回答数
感染症のリスクを回避できるため	11
web形式の方が集中できるため	15
対面形式の方が集中できるため	2
期間中いつでも受講できるため	58
期間中何度でも受講できるため	25
その他	1
未回答	6

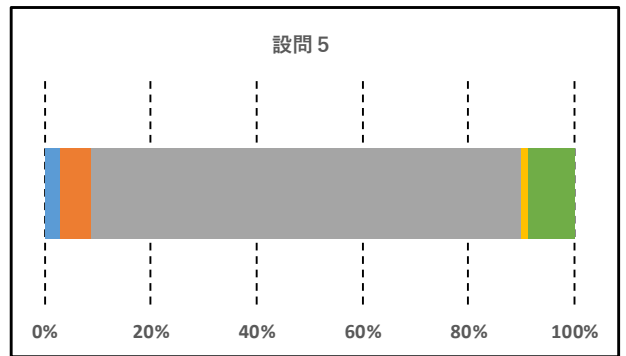


グラフ1.「環境安全に関する講習会」アンケート 設問別の回答集計結果 (次ページへ続く)

設問5

講習「化学物質にかかる安全教育と廃棄薬品の取扱い」について、講習時間の長さはどうでしたか。

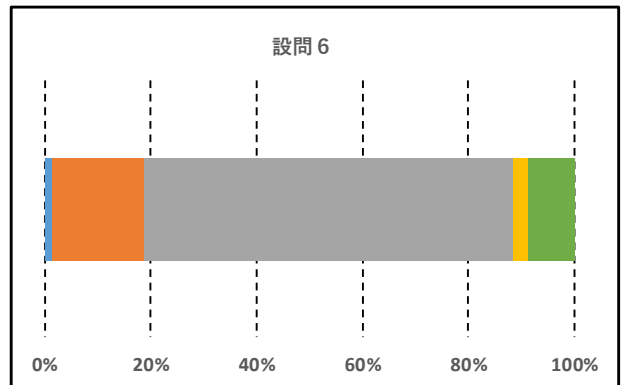
	回答数
長く感じた	2
やや長めに感じた	4
適切だった	56
やや短く感じた	1
短く感じた	0
未回答	6



設問6

講習「化学物質リスクアセスメント実施ツールCREATE SIMPLEを用いたリスクアセスメント評価方法」について、講習時間の長さはどうでしたか。

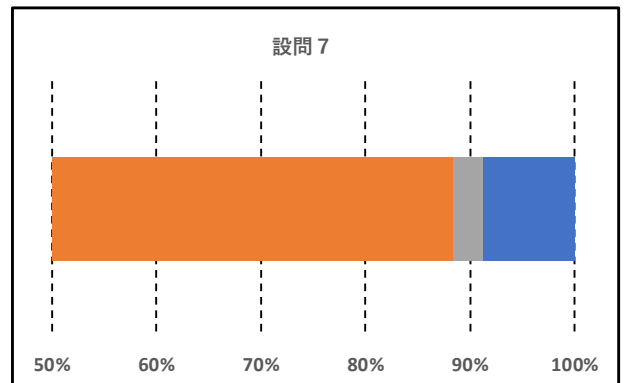
	回答数
長く感じた	1
やや長めに感じた	12
適切だった	48
やや短く感じた	2
短く感じた	0
未回答	6



設問7

講習会の開催期間（日数）はどうでしたか

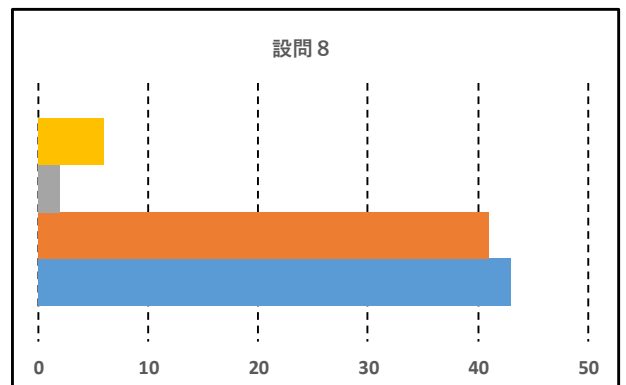
	回答数
適切である（2ヶ月）	61
短いほうが良い（1週間）	2
その他（自由記入）	0
未回答	6



設問8

今後の講習会で取り上げるテーマとして何を希望しますか？（複数選択可）

	回答数
化学物質の安全な取り扱い	43
廃液の取り扱い	41
その他（自由記入）	2
未回答	6



グラフ1.「環境安全に関する講習会」アンケート 設問別の回答集計結果（前ページから続き）

2. 廃液の回収と処理

廃液回収と処理の状況を表 1 に示す。学内における実験系廃液の処理は全て外部の業者に委託しており、学内施設での廃液処理量は0である。また、廃液処理水の外部放流はない。

表1. 廃液回収と処理の状況

(単位:L)

内訳		令和7年度 ^{※1}
前年度繰越廃液量	無機廃液	0
	有機廃液	0
	計	0
回収廃液量	無機廃液	13,085
	有機廃液	13,638
	計	26,723
廃液処理量	無機廃液	13,085
	有機廃液	13,638
	計	26,723
排水量		0
次年度繰越廃液量	無機廃液	0
	有機廃液	0
	計	0

(※1) 令和7年4月1日～令和8年3月31日の期間での回収と処理の状況